



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

やらまいか

クラブテーマ：みんな仲良く!地域に、地球に奉仕しよう!

会長/林 博宣 幹事/小田伊佐浩 会報委員会/青谷友章・大仁孝泰 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP: <http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第23回 通算1662回 2022年2月15日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	1/25 修正出席率
		72名	35名	55.6%	66.7%

ゲスト:(なし) ビジター:(なし)

★会長あいさつ

林 博宣会長



皆さん、こんにちは。2月中旬ですが暖かい日になりました。

新型コロナウイルスの感染者が以前高止まりの状態です。愛知県のまん延防止措置も3

月6日まで延長となりました。病床使用率も7割を超えてきています。先週に引き続き、対面とZoomのハイブリット例会を開催させて頂いております。平尾CCにはお世話になりました。

台湾松竹 RC から来月に開催される創立25周年記念例会に向けての祝辞の原稿依頼が参りました。原稿を書くにあたり考えていたら、色んなことを思い出しました。2012年に高桑会長年度に訪問団が結成されて、台湾に訪問したことが交流の始まりでした。交流会は、台中市郊外の温泉施設で行われ、台湾文化なのか、日本人の我々に合わせてくれたのか、最初は裸のお付き合いとなりました。懇親会で、当時の会長エレクトの故森下武治さん、当時のクラブ奉仕委員長の故原田邦夫さんと同席になりました。お二人ともお酒がすすみまして、森下さんが原田さんに向かって「邦ちゃん、いいやつだなあ」と何回も言っていたことを覚えています。今日の例会は、その邦ちゃんこと原田邦夫さんのご息さんの原田浩史さんの新入会員スピーチです。楽しみにしております。

台湾との交流の話の続きで、姉妹締結をした年度の国際奉仕委員長は小野喜明会員でした。姉妹締結について、台湾台中松竹 RC と一緒に国際奉仕活動

を考えることが、姉妹締結の目的になればと言われました。2019年相互訪問を最後に、新型コロナの影響で交流が止まっています。再開しましたら、国際奉仕活動を共に考えていくことが出来れば、お二人も喜んでいただけるのではないかと思います。

★幹事報告

小田伊佐浩幹事

例会臨時変更のお知らせ
東三河分区ゴルフ大会開催のお願い
クラブのガイドラインの一部修正について
ハイブリット例会の開催期間について



平尾 CC さんのご協力頂きハイブリット例会が出来ました。

★委員会報告

雑誌広報委員会 早川喬俊委員長
ロータリーの友購読料改定のお知らせ
ロータリーの友2月号の紹介

★新入会員スピーチ

原田浩史会員



こんにちは。今日はお話をする機会を頂きありがとうございます。私のこと、会社のこと、お世話になった父原田邦夫のこと

をお話させて頂きたいと思っています。

私の自己紹介させていただきます。1978年に生まれて今年44歳になります。出身は豊川市御津町です。私の性格は、ぱっと見、真面目に見られます。きちっとしている印象を持たれることが多いですが、内面は凄くおっとりしていて、ペースが遅く、フワツとして夢見がちな幼少期だったと言われていました。父親とは正反対な性格で、父は凄くハッキリしており、自分の意見も持っていたので、敵を作ってしまうこともあったようです。私はやんわりしており、そんなに癖がないです。家庭では僕が発言すると、父親が怒る感じでしたから、家族はみんな戦々恐々として、浩史は宇宙人だと家では言われていました。とてもルーズなところもありまして、約束が守れなかったり、朝起きれなかったりする子だったので、いろんな形で直して今があります。

私の趣味は、音楽で、楽器演奏をやっています。学生の頃は、ロックバンドでドラムをやっていました。十数年間、東京でライブもやっていました。愛知に帰ってきてからは、ほとんどやらず、最近ジャズのドラムの演奏を少しやっています。

会社の事を話します。会社はキングラン東海です。1980年に父が創業しまして、42期が終わったところです。事業としては、病院さん、介護施設さんのカーテンを販売したり、リースしたり、クリーニングもしております。愛知県と静岡県で約320件のご契約のお客さんがいます。もう一つ、福祉用具のレンタルをやっています。介護が必要な方に福祉用車椅子とか介護ベットのレンタルをしています。この辺りで300名ぐらいのお客さんがいます。従業員数は40名で、売り上げは前期が5億5千万円でした。

私の幼少期の話を少しします。父は厳しい人でした。先ほどお話をしたような子どもだったので、父はとても心配をしたと思います。父からしても、私に後を継ぐようになってほしいという想いもあった

と思います。僕はルーズでフワツとした宇宙人のようだったので、非常に厳しくて、殴る蹴るは当たり前でした。山に捨てるとか、夜ご飯はずっと外に立っているとか、色々とされました。僕からすると、とても怖い父だったとイメージがあります。平日は家に帰ってくることは殆どありませんでした。母親も父と一緒に仕事をしていました。父親がどこかで食事をしており、母親の仕事が終わると父を迎えに行って帰ってくる。だいたい夜の11時か12時ぐらいでした。帰ってくるとだいたい酔っぱらっていたので、僕はビビっていました。

ですが、凄く楽しい父でした。キャッチボールをやってくれた記憶とか、旅行に連れて行ってもらう色んな遊びをしてもらった記憶もあります。僕は運動が苦手でしたが、父からすると野球をやらないと人間ではないといった感じで、中学ではいよいよ野球部に入ったり、高校ではサッカー部に入ったりしました。父に鍛えてもらいました。

昨年まで、叔父の原田雄二がクラブにお世話になっていました。叔父は、父が殆ど家にいないので、代わりに遊んでくれた人です。叔父の事がめちゃくちゃ好きでした。楽しい人で、いつも面白いことばかり言って、子どもの時代から大好きで、いつもついて行ってました。

私のその後の経歴は、学卒後に最初に就職したのが東京です。NECの子会社でシステムエンジニアをやっておりました。ソフトウェア開発をやっていました。2年ぐらいやったあとに営業をやりたいという気持ちがわきまして、求人広告のリクルートに転職しました。リクルートという会社を皆さんご存じだと思いますが、凄くキツイ会社です。凄く楽しかったですが、飛び込み営業とかで凄く鍛えてもらいました。1日300件飛び込むとか、1日電話掛けを2000件とかでした。求人でも凄く鍛えてもらったので、今は会社の求人に凄く生きています。

システムエンジニアは2年間やって、リクルートは4年間お世話になって、キングラン東海に入社しました。入社して、4年で代表を交代しました。30歳の時に帰ってきて、34歳で代表を交代しました。

入った当初、父もリクルートから来たからと期待をかけてくれて、僕も社内で色んな取り組みをしました。営業も頑張りましたし、社内の色んな仕組みを作って、求人をやったりしてきました。どうしてもぶつかってしまって、父親の考え方と段々合わなくなるところが出ました。ぶつかって、父が胸ぐら

をつかむ位の喧嘩になったことも何度かありました。

僕が34歳の時、父が65歳です。父としては65歳の誕生日の翌月の11月に代表を交代したいという思いを持っていました。そこを目指して交代しようと当初は言っていましたが、僕と父の会話が合わないとか、僕が凄く反抗的な事をするので、いつしか交代の事が立ち消えになっていました。

父は、65歳になる2012年11月に交代しようと言っていたのですが、2012年10月に入っても、その兆しもない感じでした。10月の中旬に、父の知り合いのところに仏教の修行に行くことになりました。

「内観」という修行です。7泊8日間、携帯も取り上げられて、籠って、ひたすら色々考えるという修行をしました。これが、父と自分のこれまでの人生を棚卸する、母と自分の関係を棚卸する、というところでした。その中で、とんでもない程、僕は気づきました。僕は、父が公私混同している考えが凄く嫌でした。公私混同している感覚とか、厳しかったこと、色んなことに対してマイナスなイメージを持っていました。父がこれまでに自分にしてくれた事の数々をたくさん思い出しました。あんなことをしてくれた、こんなことをしてくれた、会社に入ってからぶつかったことも、全て、僕が代表になるのに、このままだと社員から信頼されなくなるぞという意図があったということが明らかにわかりました。3日目ぐらいから、僕は泣き崩れまして、父親に対して何ていうことをしたのだと思いました。7泊8日間終わって、下山して直ぐに父に電話を掛けました。「会ってくれ」と話し、御津町の実家に行き、父と母を並べて、私は土下座をしました。「これまで申し訳ないことをしました。色んなことをしてくれたのに、それに対して御礼も一つもなく、いつも反発をしていました。このような自分では社長にはなれないので、交代を見送ってください。僕は恩をもらってばかりだったので、恩返しを暫くさせて下さい」という話をしました。父と母は茫然としていました。その翌週に父から社長室に呼ばれまして「来週、代表を交代しよう」と言われて、2012年11月1日に交代をさせて頂きました。

交代して、僕はもうやるしかないと思いました。交代して3か月後に、父に肝臓癌が見つかりました。それも末期であると言われ、非常にショックでした。余命3ヶ月と言われたのが、結果9か月で、2014年1月21日に亡くなりました。

2014年の1月の初めに、父が余命1ヶ月とお医者さんから言われて、その時に僕に電話をかけてきま

した。僕もその日に宣告されるのを知っていたので、その電話だと直ぐに思いました。父は「今、余命宣告をもらった。あと1ヶ月らしい。だから、お前はもうお見舞いに来るな、仕事を一生懸命に頑張れ、それがお前の最大の見舞いだ。」と言いました。その時、東京の品川駅の改札にいたのですが、泣き崩れました。なんという人だ、強い人だなと思いました。僕は「こんな不甲斐ない俺で申し訳ない、頼りなくて申し訳ない。」と電話口で誤ったのですが、「お前は大丈夫だと」と父は言いました。前年に社長を交代して1年で良い業績を上げることが出来た事があり、そのことを父は言ってくれました。最後まで弱い姿を見せない父でした。余命宣告をされた父は、相続を着々と進めて、会社の重役の人たちにも会社のことなど指示を出して、最後1月21日亡くなりました。亡くなった顔を見たら、これまで見た事のない穏やかで平和な顔をしていました。

代表を交代した前後の話をします。キングラン東海に入って、父がどんなことをしていたのか僕は知りませんでした。カーテンの事をやっているのは知っていました。入社した時に病院まで行って、一緒に仕事をさせてもらった時に、僕は感動をしました。父が社員を鍛え上げて、現場での対応を徹底的にやっていたことを知りました。とても感動しました。こんなサービスだったら他の病院さんもやったら良いのと思うぐらいでした。病院ですから、どうしても入札で価格競争がありました。父と喧嘩別れした人が会社を立ち上げていたりしたので、価格競争に巻き込まれてしまって、僕はとても悲しかったです。父がこんなに良いサービスを作って、社員を鍛え上げているのに、どうして価格競争になるんだと思いました。何とかこれを伝えられないかと思って、私が考えて作ったのが皆さんにお配りした“キングラン通信”という冊子です。自分のプライベートなことから、仕事のなど色んなことを伝えています。社員の顔丸出しです。冊子の中に、こんなサービスやっていますと載せています。2010年に作って、今12年目に入りました。最初はA4裏表



で作りましたが、今は冊子になりました。社員が凄く協力してくれます。私としては、これを通じて、父親が作った価値が長いこと保管されることを希望して取り組んでいます。

代表を交代して 10 年目になります。父が亡くなってから、凄く迷走をしていました。父がいなくなって、その存在がいなくなって、社員も不安で不安で仕方ないので、僕は原田邦夫にならないといけなと思っていました。僕と父は性格が正反対ですから、やっているうちに無理が出てきました。体にも来ていました。5 年ぐらい前に、父になることを諦めまして、私は私の道を生きようと思いました。そうしたら、社員が協力してくれるようになりました。社員の中で、どんどん人が育ってくれるようになりました。経営やマネージメンを僕が原田邦夫のようにできないと悟ったので、外部の方の力を借りたり、社員の力を借りて、徐々に会社の仕組みを整えていきました。

一昨年のコロナ禍に見舞われたときに、我々の業界も凄く打撃を受けました。そもそも病院や介護施設が立ち入り禁止状態になりました。入れないので仕事にならないので、売上げが落ちた時期がありました。その時に僕から社員に、「今だからできることはないだろうか?」「コロナ禍だからできることはないだろうか?」という問いかけをしました。そうしたら、社員の子たちがみんな立ち上がってくれて、やれることをやってみようとしてくれました。僕も触圧されまして、320 件契約しているお客さん全部に半年かけてご挨拶回りをさせて頂きました。「どんなことでお困りですか?」「何か我々にできることはないですか?」と言いながら、病院さん、介護施設さんを回らせて頂きました。病院さんも凄く喜んでくれました。「キングランさんは戦友だな」「危険なのに来てくれるところはそんなにいない」とか言って頂き、社員と協力してやった結果、一昨年と昨年も業績を落とさずに来ることが出来ました。

私の今の気持ちは、「もう一人ではやらない」というのが原田浩史の考えです。社長として、原田邦夫と比較したら、とんでもない差があると思います。それでも社長の職をやらせてもらっているので、感謝の気持ちです。社員がいるから社長をやらせて頂いてします。社員の子たちが協力してくれるから現場が回っている。そのための礎を作ったのは父で、そこに対して感謝の念を感じています。これからは

私が私らしくやりながら、社員と協力して、頑張っていきたいと思っているのが、最近の私の近況です。ご清聴ありがとうございました。

★ニコニコボックス

山本章吾会員 結婚記念日を祝って頂き
近藤利行会員 所用にて途中退席します

★国際ロータリーの Facebook 紹介

国際ロータリーからの声明 2022.2.15

ロータリーは、ロシアとウクライナ間の緊張関係および武装紛争の差し迫った可能性が高まっていることを強く懸念しています。世界がパンデミックからまだ抜け出せずにいる中で、ヨーロッパでの戦争は悲劇的な結果につながり、現地の市民だけでなく、人類全体にも壊滅的な影響をもたらすでしょう。

世界最大の人道団体の一つとして、ロータリーは「平和」を世界的な使命の礎石としてきました。戦争は、国家間や人びとの間の不和を解決するための適切な選択肢ではありません。私たちは、国際社会とともに緊張緩和を呼びかけ、対話を通じてこの対立を解決するための緊急かつ確固たる外交努力を強く支持します。

過去 10 年間、ウクライナ、ロシア、および近隣諸国のロータリークラブは、国の違いを超えて、親善を推進し、戦争や暴力の被害者への支援を先導する平和構築プロジェクトに積極的に取り組んできました。私たちはこれらの取り組みを継続し、断固たる決意をもって、この危機的な状況の平和的な解決に寄与するよう努めます。

会報担当：青谷友章・大仁孝泰